

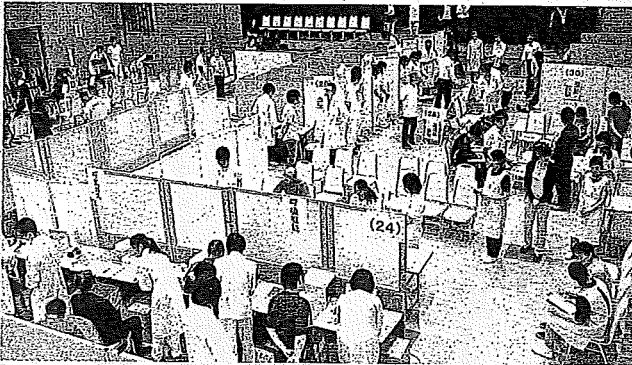
岩木「プロジェクト健診」11年目

健康増進も 地元還元もへ

岩木健康増進プロジェクトの一つ「プロジェクト健診」が30日、弘前市の岩木文化センターあそべーるなどで始まった。今年から内臓脂肪測定などを加え、約600項目を検査。6月8日までの10日間で、弘前市岩木地区住民1200人のデータを集め、認知症・脳卒中の

早期発見や予防法の解明に役立てる。プロジェクトは今年で11年目。その中心人物である弘前大学院医学研究科の中路重之科長は「世間の注目も高まっている。今後は住民の健康アップをどうやるのか具体的な取り組みを行ってきたい」と展望を語った。(成田真矢)

新たに内臓脂肪も測定 具体的取り組みへ意欲



11年目を迎えたプロジェクト健診

岩木健康増進プロジェクトは弘前大学医学部社会医学講座(中路重之)による。

重之教授、弘前市、県総合健診センターが2005年から10年計画で実施。計画最終年度の昨年度からは、文科省の「革新的イノベーション創出プログラム(COI事業)」に採択され、岩木発の国家的な事業として再スタートを切った。今年度は内臓脂肪測定、レントゲンによる骨密度測定、首の磁気共鳴画像装置(MRI)検査などを新たに実施。COI事業には複数の民間企業なども参加しており、プロジェクト健診には今年から花王やG&Hヘルスケア、シャバン、エーザイなど全国的に有名な企業も検査スタッフとして加わった。

初日の30日は弘前大学医学部、理学部、工学部の学生・教員や県総合健診センターの職員ら総勢約200人のスタッフで健診に当たった。午前6時半から受け付けが始まり、若者男女を問わず大勢の岩木地区住民が参加した。

中路科長は「病院では取りきれないデータも多く、整形外科や歯科、婦人科などさまざまな研究分野で魅力がある」とこれまで蓄積してきたビッグデータについて語った。岩木健康増進プロジェクトは同健診の他に、小中学生対象の健康調査と運動教室の三本柱の事業を展開している。中路科長は「この三つをつなぎ合わせる。岩木地区住民の健康アップをどうやって

実現するか、具体的な取り組みを進めていきたい」と、国家的事業であると同時に、地元密着型の健康増進への貢献に意欲を示した。